



平成 30 年 7 月 17 日  
佐賀大学理工学部

## 佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(3)

### 【概要】

佐賀市旧青少年センターの一室にある不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と循環物質化学専攻大学院生らが本年度3回目の理科実験教室を実施しました。

### 【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲を惹起することを目的に平成 17 年から行なっています。

本年度第 3 回目の理科実験教室は、平成 30 年 7 月 13 日(金)に循環物質化学専攻の大学院生、機能物質化学科の大学 4 年生が理工学部機能物質化学科 長田 聡史 准教授とともに「料理の香りが生じる仕組み」と題して糖とアミノ酸のメイラード反応の実験を行いました。ブドウ糖に混合するアミノ酸の種類によって生じる香りが異なることや甘味料の代替物では香りが強くないことを体験しました。メイラード反応が発酵食品の芳醇な香りの要素となっていることや糖尿病の細胞のダメージなどに関与していることを、教員と学生が参加した子供達にわかるように説明しました。



「理科実験教室」の様子